

6/26～7/1に
第2・3ギャラリーで
小津安二郎監督に関する
展覧会が開催されるよ。



【松阪と北畠氏（番外編）～大河内城の戦いを前に焼失したと伝わる養徳寺跡！？「寄谷遺跡」～】



写真1 柿経
(三重県埋蔵文化財センター提供)



写真2 銅製花瓶
(三重県埋蔵文化財センター提供)



写真3 五輪塔
(三重県埋蔵文化財センター提供)



写真4 「養」と朱書きされた茶碗の一部
(三重県埋蔵文化財センター提供)

先月号では、北畠氏が大河内城に立て籠もり、南伊勢に侵襲してきた織田信長に対し、およそ50日にも及ぶ籠城戦を繰り上げた大河内城

の戦いについて紹介しました。今月号では、その北畠氏や大河内城の戦いに関係すると考えられる「寄谷遺跡（養徳寺跡）」（矢津町）について紹介します。

寄谷遺跡は、大河内城跡西側の谷部から丘陵

部にかけて所在する遺跡です。とくに、丘陵部に「養徳寺」という寺院があったとの伝承が地元に残っており、また、『大河内御所兵乱記』にも大河内城の西側に「養徳寺」という古跡があったという記述があります⁽¹⁾。昭和61年から62年にかけて、三重県教育委員会が実施した近畿自動車道（久居～勢和間）の建設にともなう発掘調査により、これらの伝承や記述を裏付けるような遺物が見つかりました。

まず、寺院があったことを思わせる遺物として、法華経が書かれた「柿経」⁽²⁾（写真1）や「銅製花瓶」（写真2）、「五輪塔」（写真3）などが見つかりました。五輪塔の中には、永正⁽³⁾・永禄⁽⁴⁾の年号を刻むものがあり、このことは大河内城とこの遺跡が同時期に存在していたことを示していると考えられます。さらに、養徳寺という名称を想起させる遺物として『養』と朱書きされた茶碗の一部（写真4）も見つかっています。

そして、大河内城の戦いを思わせる遺物として、一部が変形している「鉛玉」（写真5）や熱で変形した釘隠しと思われる「円形銅板」（写真6）などが見つかりました。『信長公記』⁽⁵⁾の大河内城の戦いを書いた一節には「鉄砲衆に仰せ付けられ」という記述があり、『朝倉記』⁽⁶⁾の中にも「鉄砲頻射出」という記述があります。また、『大河内御所兵乱記』には「養徳寺トテ古跡ノアリケルヲ、城中ヨリ放火箭自焼シタリ（意訳：大河内城の西には養徳寺という古跡があったが、大河内城の戦いの前に北畠側が城から火矢を放ってみずから燃やしてしまった）」という記述があり、これらの記述は見つかった遺物の存在を思わせます。

また、約60基もの五輪塔が、溝に蓋をするための資材として転用されている遺構（写真7 右上）も見つかりました。本来、供養塔や墓標であ



写真5 鉛玉
(三重県埋蔵文化財センター提供)



写真6 円形銅板（釘隠し？）
(三重県埋蔵文化財センター提供)



写真7 五輪塔が溝の蓋として転用されている遺構
(三重県埋蔵文化財センター提供)

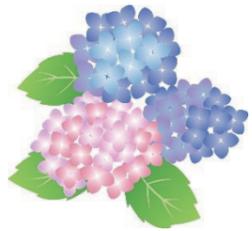
るはずの五輪塔が大量に建築資材として転用されていたという事実は、戦国時代の緊迫感をうかがわせるものといえるかもしれません。

4月号から今月号まで3回にわたり北畠氏について取り上げました。松阪地域を治めた人物として蒲生氏郷がよく知られていますが、氏郷以前、室町時代から戦国時代にかけて約230年間、松阪地域を治めたのは北畠氏です。そのため、松阪地域には、阿坂城跡（国史跡・大阿坂町）や大河内城跡（県史跡・大河内町）、阪内城跡・阪内御所跡（市史跡・阪内町）、北畠氏が開いた曹洞宗の古刹・浄眼寺（大阿坂町）など北畠氏にゆかりのある場所が多くあり、また、市内の寺院などには北畠氏が出した書状なども残っています。それにもかかわらず、松阪では北畠氏についてあまり知られていないように思いましたので、これをきっかけに北畠氏についても知っていただければと思います。（担当）

※この記事を書く際、『近畿自動車道（久居～勢和間）埋蔵文化財発掘調査概報Ⅲ』（三重県教育委員会、1987年）、『平成18年度第25回三重県埋蔵文化財展 北畠氏とその時代』（三重県埋蔵文化財センター、2006年）などを参考にしました。
※今月号や過去のはにわ通信（カラー版）は当センターHPでご覧いただけます（<https://www.city.matsusaka.mie.jp/site/bunkazai-center/list264.html>）。

【六月・・・紫陽花】

雨に映える紫陽花は、この季節に欠かせない風物詩です。万葉の時代から親しまれてきた日本原産の植物で、あじさいの語源は「あづさ草」です。「あづ」（集）は集まる様、「さ草」は「さあい」（真藍）の約音となります。青い小さな花が集まって咲くことから名付けられ、平安時代の学者・源順が「紫陽花」の漢字をあてました。紫陽花を詠んだ歌は、万葉集に2首あり、それぞれ紫陽花に寄せる思いは異なります。



あぢさゐの 八重咲くごとく やつ代にを いませわが背子 見つづ偲はむ 橘諸兄

（訳：あじさいが八重に咲くように、いつまでもお健やかでください。この花を見るたびにあなたを思い出しましょう。）

言問はぬ 木すらあぢさゐ 諸弟らが 練の村戸に あぢむかえけり 大伴家持

（訳：ものを言わない木でさえ、あじさいのように色鮮やかに見せてくれます。言葉をあやつる諸弟たちの巧みな言葉にすっかりだまされてしまいました。）

はにわ館の阪内川沿いに紫陽花の咲く小道があります。色とりどりの紫陽花を見ながら、古今に思いを馳せるゆったりとした時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

6月のギャラリーは、写真の展覧会がたくさんあり、下旬には、松阪出身の映画監督・小津安二郎に関する展覧会を予定しています。また、はにわ館にある、傘（蓋：きぬがさ）の形をした飾りが立つ『船形埴輪』も是非ご覧ください。（所長）

文化財センター はにわ館 & ギャラリーの催し物予定

6月の休館日は、4日（月）、11日（月）、18日（月）、25日（月）、
7月の休館日は、2日（月）、9日（月）、17日（火）、23日（月）、30日（月）です。
開館時間は9：00～17：00です。

【はにわ館】 入館料 100円（18歳以下無料） *入館は16:30まで

第1展示室 ■常設展「宝塚古墳の謎」
第2展示室 ■学習支援展示「大昔のくらし～きみも のぞいてみよう！～」 6/3（日）まで

【ギャラリー】 入場無料

第2G ■第34回 全日本写真連盟 88支部写真展 6/6（水）～6/10（日）10:00～17:00 ※最終日は16:00まで

第1G ■CANON PHOTO CLUB ISE #6 PHOTO VISION -四季- 6/10（日）～6/17（土）9:00～17:00

※初日は13:00から、最終日は16:00まで

第1・2・3G ■第7回 松阪写真交流会フォトフェスティバル 6/19（火）～6/24（日）10:00～17:00

※初日は13:00から、最終日は16:00まで

第2・3G ■映画監督 小津安二郎生誕115年・小津安二郎青春館開館15周年記念企画

6/26（火）～7/1（日）10:00～16:00

(1) 『松阪市史 第3巻 史料編 古代・中世』 p226 (2) 短冊形のヒノキなどの薄片に法華経やその他のお経、仏や菩薩などの名前を墨書したもの。
(3) 永正は西暦1504年から1521年まで。 (4) 永禄は西暦1558年から1570年まで。大河内城の戦いは永禄12年(1569年)。
(5) 著者は、織田信長・豊臣秀吉に仕えた太田牛一。牛一が日記のついでに書き記したものの基礎として編述したものといわれ、史料価値が高い書物。
(6) 戦国大名・朝倉氏に関して江戸時代に書かれた書物。この中の一節に大河内城の戦いに関する記述がある。